

高卒就活 旧弊に風穴

採用選考 あす解禁

2019年春に卒業する高校生の採用選考が16日に解禁になる。人手不足を背景に高卒採用の求人倍率は8年連続で上昇する見通しだが、

「緊張する性格なので面接どうまく話せなかったらどうしよう」「大きい声でしっかり話した方が印象がいいよ」。9月上旬の平日、都内の私立高校では就職を希望する生徒と教師が面接の練習を重ねていた。16日の選考解禁を前に、進路指導担当の教師は慌ただしい日々が続いている。3年生の就職希望者が120、130人いるこの高校に対し、1

500件以上の求人票が企業から届いた。採用競争の激化で大半や中途の人材は確保しにくい事情もあり、高卒採用に前向きな企業は増えている。厚生労働省によると19年卒の求人倍率は7月末時点で2.37倍。バブルの雰囲気が残る1993年卒(2.72倍)をうかがう高水準になるとの見方もある。

同じ売り手市場でも学生が複数の内定を得て企業を選ぶ大卒とは異なる。「応募は1人工社まで」といった1950年代からのルールが残っているため、旧弊を打ち破るというスタートアップが登場しており、高校生らの「援軍」になっている。

LINEで求人紹介 チャット使って相談

選考解禁以降に面接を受けると大半のケースで合格となるが、内定を得た時点で就活をやめる必要がある。複数の企業に接触しながら就職先を決めることはできない。

このルールが出来上がったのは高度成長期の1950年代半ば。人材を確保した企業、生徒を就職させた高校、学業優先を掲げる文部省(現文部科学省)や、実際に好条件を掲げて生徒を採る不正企業を減らした労働省(現厚生労働省)が作り上げた。

罰則規定はないが、今も日本商工会議所などの経済団体、全国高等学校長協会、国の3者の申し合わせ事項として残っている。ただ、就職して3年以内の高卒者の離職率は40%と30%前後で推移する大卒を上回る。入社後のミスマッチが多いとの見方は強い。

首都圏の工業高校3年の男子生徒は「人工社しか受けられないので面接時にこの会社は自分に合わないかもと気付いても他に選択肢がない」と漏らす。ある私立高校教師は「職業選択の自由

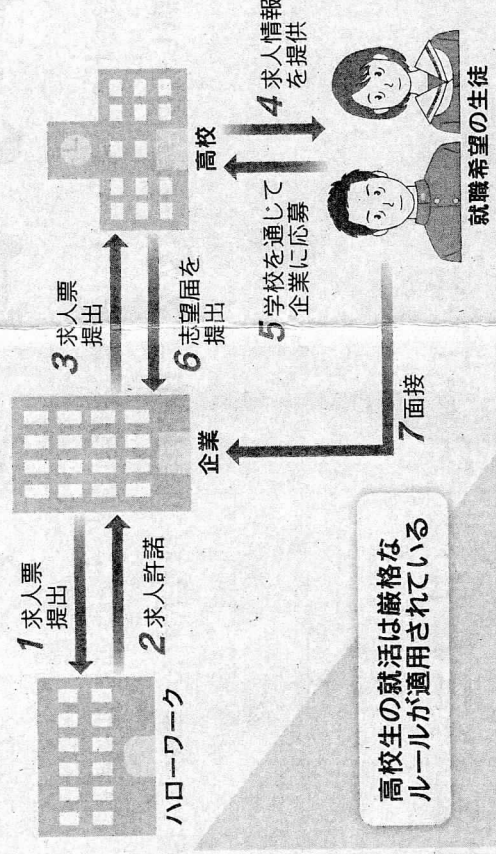
を狭めている」と話す。複雑な就活の壁に風穴をあけようとする企業も出てきた。人材関連スタートアップのシンジブ(東京・港)は無料対話アプリ「LINE」を使う求人紹介サービスを開始。個別の生徒の相談にも乗っている。

ある高校生は教師に希望の就職先を相談したが、色よい返事はなかったことからLINE上でシンジブに相談。「いくつか探してみます」と返事があったという。同社は高校生に求人情報を紹介し、教師に伝えるよう促すサイトを運営しており、企業からの掲載料や広告料を収益源にする。

人材研修などを展開するBacks(スリーバックス、東京・渋谷)は高卒や高校中退者向けの就職支援を手がける。自社でビジネスプランなどの研修を受けながら、先輩社員と一緒に営業の現場に出て仕事を学ぶ。研修中は給与や社員寮も提供する。

動画マーケティングのVAZ(東京・渋谷)も、高卒者などの就職の選択肢を広げるサービスを展開。企業の採用担当者と求職者が交流できるイベントを開くほか、スマホ向けアプリを提供。求職者はチャットを使ってキャリアカウンセラーに相談でき、自分に合う企業を紹介してもらえる。

旧態依然のルールを消存している若年労働者の能力を引き出せないばかりか、企業の競争力をそそがねない。新興企業のサービスが広がれば、直し議論につながる可能性もある。(瀧山美穂)



高校生の就活は厳格なルールが適用されている

高卒採用計画ランキング(単位:人)

順位	社名	19年卒計画	18年実績
1	JFEグループ	1004	913
2	新日鉄住金	880	740
3	アイシン・エイ・ダブリュ	800	731
4	山崎製パン	約740	734
5	山九	約500	345
6	日産自動車	380	290
7	日野自動車	約350	342
8	アイシン精機	335	253
9	フジバングループ	約330	286
10	ホンダ	290	265

(注)日本経済新聞社の採用計画調査をもとに作成。調査は4月時点